

お知らせ:次回発信日は8月14日週報(予定)

Jミルクが2025年8月1日に公表した「需給見通し(※2025年5月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【6月の統計実績】

● 生乳生産量

全国が、前年同月比+1.9%(日均量、以下同)となり、11カ月連続で前年水準を上回った。地域別では、北海道が+3.8%と全国同様に11カ月連続で前年水準を上回った。都府県は▲0.7%と12カ月連続で前年水準を下回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が6月中旬以降、前年同月比で+4%と高水準で推移していたが、7月下旬には猛暑の影響などにより+0.9%まで増加幅が縮小。都府県では、3月下旬に約10か月ぶりに前年水準を上回ったが、その後はおおむね前年並みの水準で推移している。

● 牛乳等生産量

牛乳は、乳価改定の影響が一巡した昨年8月以降、ほぼ前年並みで推移していたが、5月および6月は2カ月連続で前年水準を下回った。一方、発酵乳については、2か月ぶりに前年水準を上回った。こうした中で、生乳の飲用等向処理量は、前年同月比の減少幅が拡大し、▲1.0%と2カ月連続で前年水準を下回った。この結果、乳製品向け処理量は+5.5%となった。

● 乳製品需給

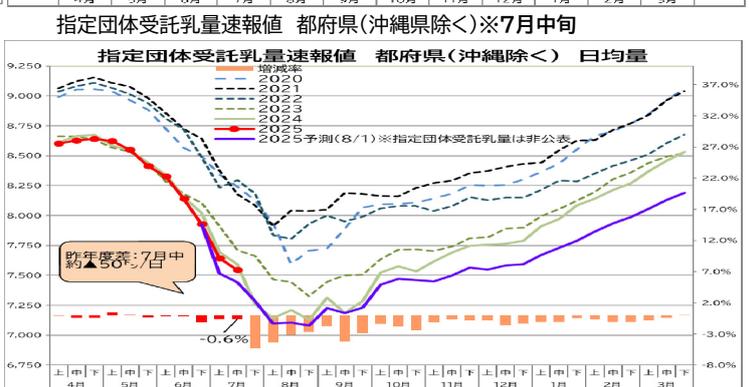
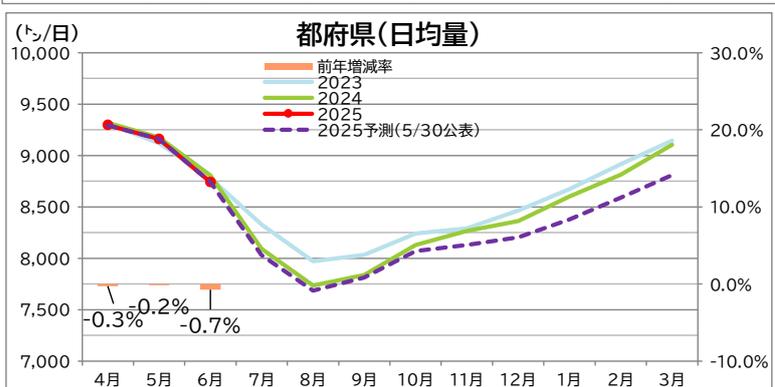
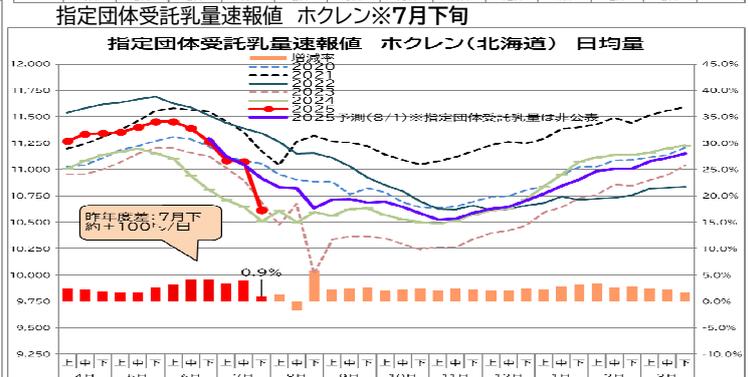
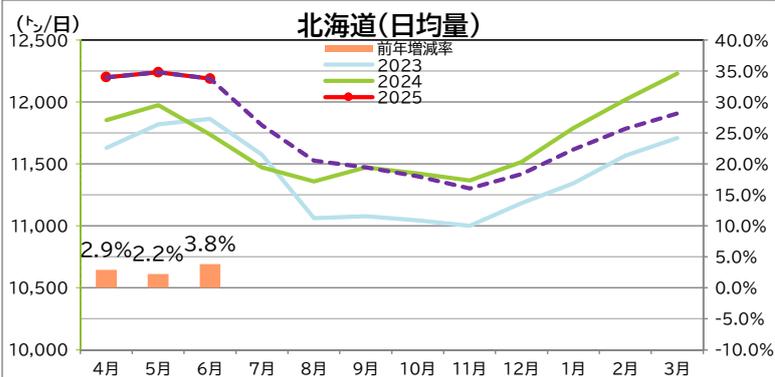
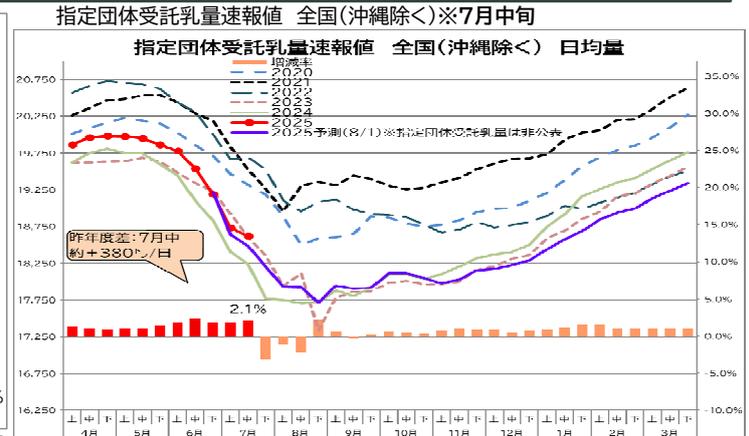
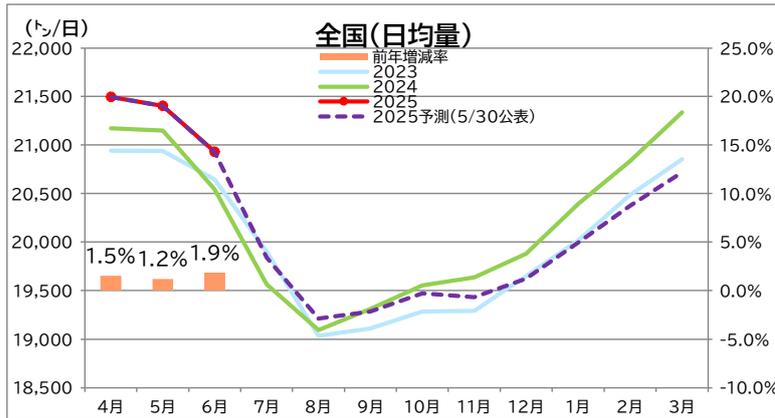
脱脂粉乳は、生産量が13.1千ト、推定出回り量は9.9千トと需要量が供給量を下回り、月末在庫量は63.8千ト(前年同月比+17.6%)と7カ月連続で前年水準を上回った。在庫量が60千トを超えるのは、2カ月連続。バターは生産量が6.4千ト、推定出回り量が6.2千ト、輸入売渡数量が0.7千トとなり、供給量が需要量を上回ったため在庫量は0.9千ト増加して32.0千トとなった。在庫量は10カ月連続で前年水準を上回っている。

【7月および7/28週の販売動向データ】

- 牛乳の販売個数は、気温の上昇に伴い増加傾向で推移しており、単月では8か月ぶりに前年を上回った。一方、他の3品目はいずれも前年水準を下回り、牛乳類合計も前年水準を下回った。直近週(7/28週)の販売動向では、8月1日からの飲用等向け乳価改定に伴い、牛乳類の販売単価が4品目すべて前週(7/21週)から上昇した。牛乳類の販売個数は2週ぶりに前年を下回っており、今後も販売単価と販売個数の動向を注視する必要がある。
- 発酵乳の合計販売個数は、直近週(7/28週)で3週連続で前年水準を下回り、前年同週比の減少幅も拡大している。内訳を見ると、ドリンクタイプが16週連続、個食タイプが19週連続で前年水準を下回る一方、大容量タイプは48週連続で前年水準を上回っている。
- 家庭用バターは、販売単価が上昇傾向で推移する中、販売個数は7週連続で前年同週水準を下回った。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)6月の生乳生産量は、全国627.9千ト(前年同月比101.9%)、北海道365.6千ト(同103.8%)、都府県262.2千ト(同99.3%)。
- (2)5月に公表したJミルク予測値(全国625.4千ト、北海道365.8千ト、都府県259.6千ト)との比較は北海道がわずかに下振れ、都府県が上振れした。
- (3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が7月中旬(最新、以下同)で同102.1%、都府県(沖縄除く)が同99.4%、北海道は7月下旬で同100.9%となった。

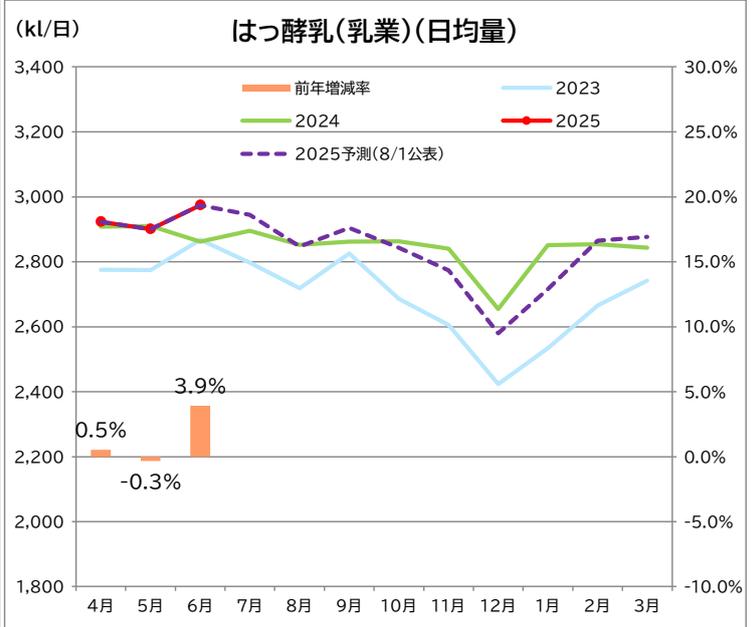
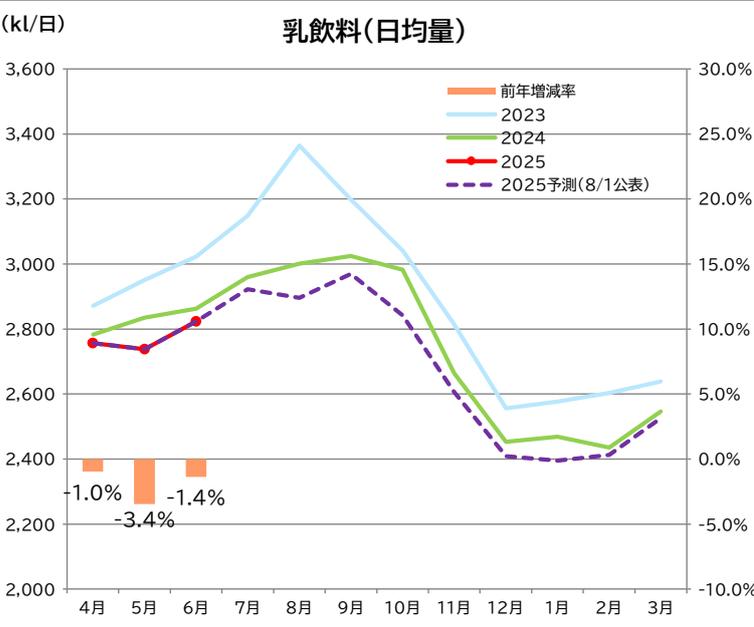
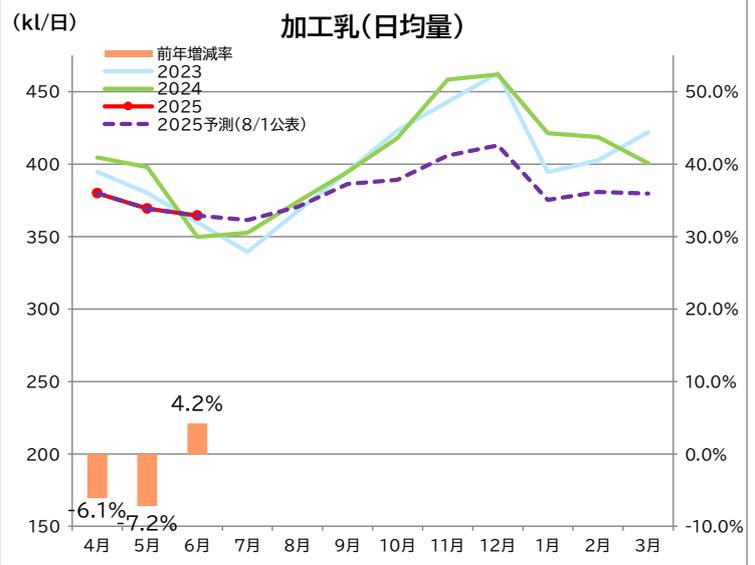
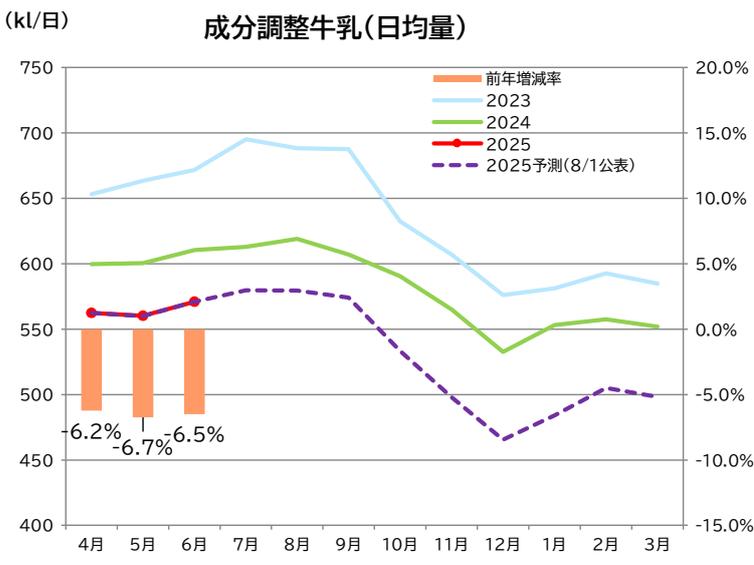
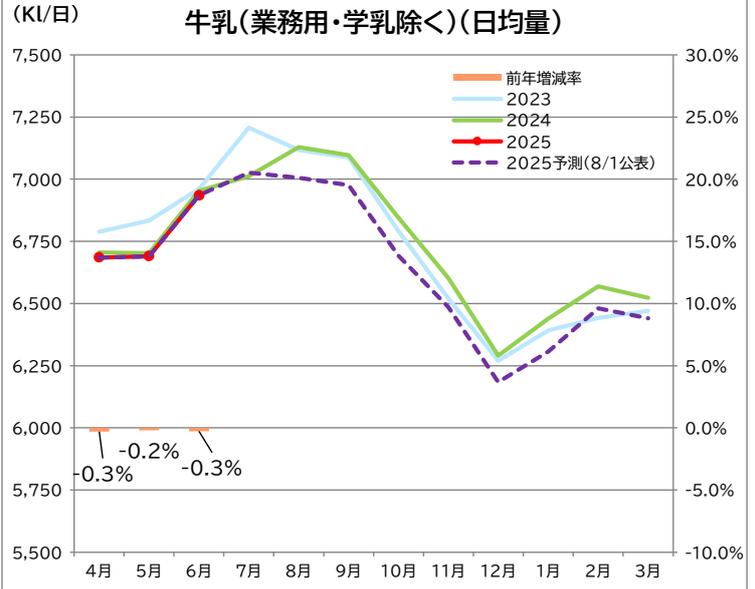
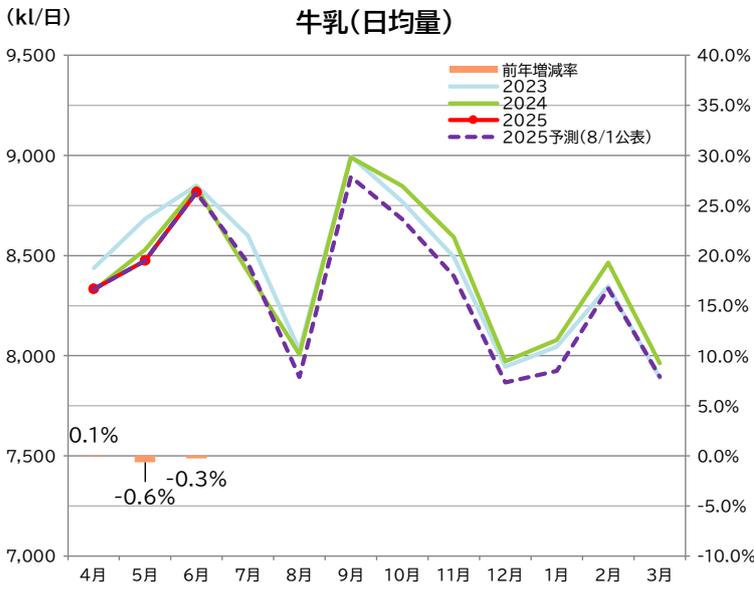


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の牛乳等生産量は、牛乳264.4千kl(前年同月比99.7%)、成分調整牛乳17.1千kl(同93.5%)、加工乳10.9千kl(同104.2%)、乳飲料84.7千kl(同98.6%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、377.2千kl(同99.3%)となり、31カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同99.7%、「業務用」は同96.8%、「学乳」は101.5%。

(3)はっ酵乳(乳業)は89.2千kl(同103.9%)、はっ酵乳(非乳業:5月実績)は97.5%となった。

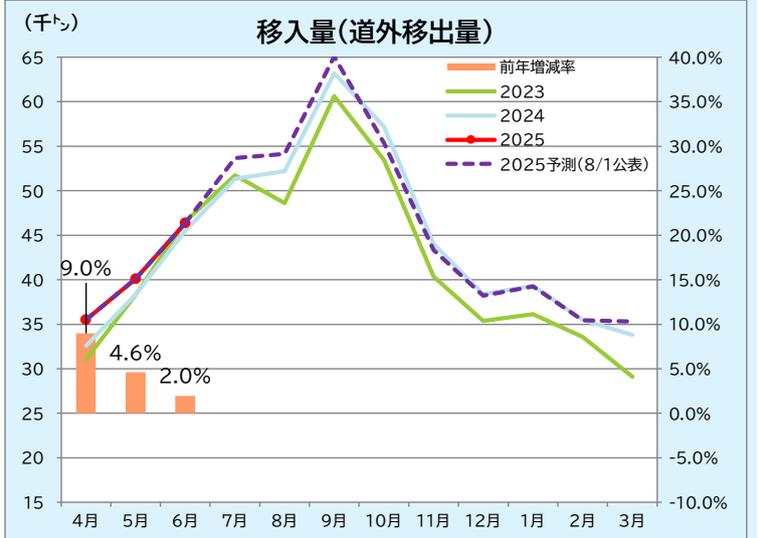
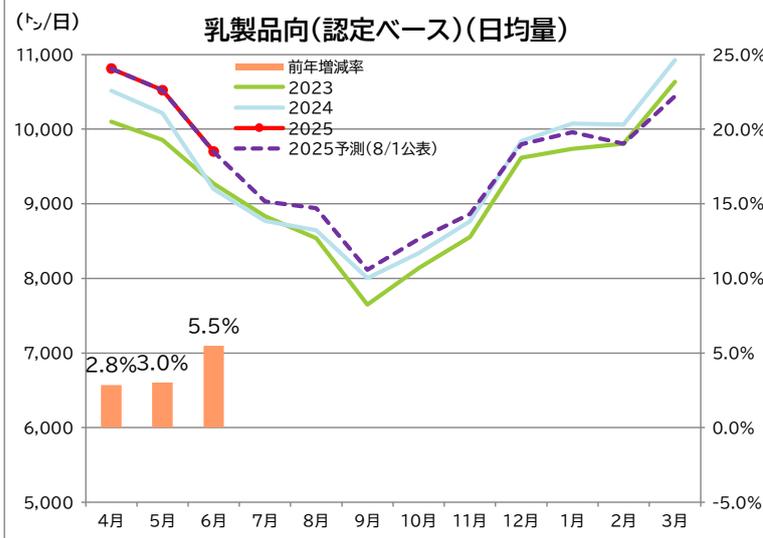
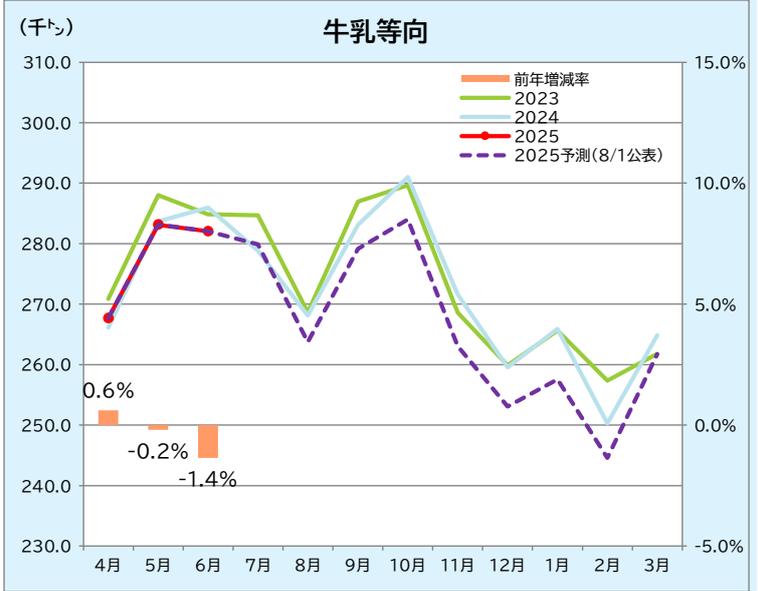
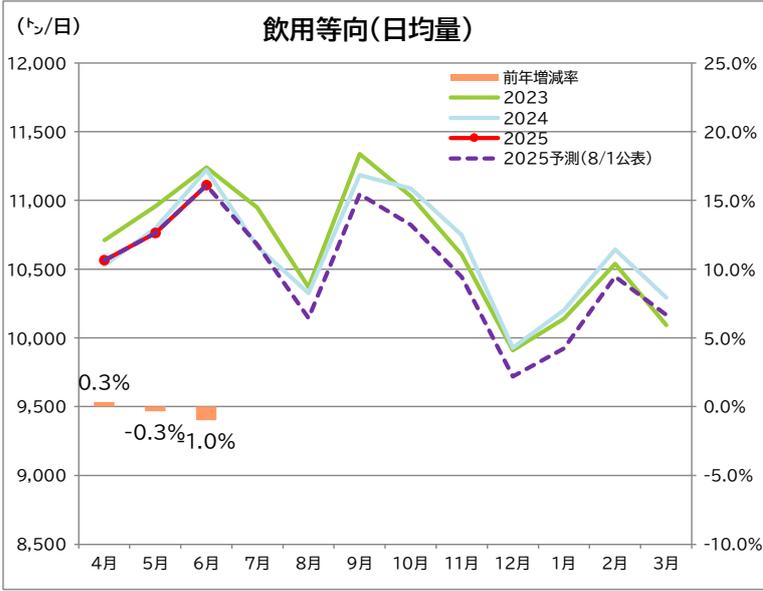
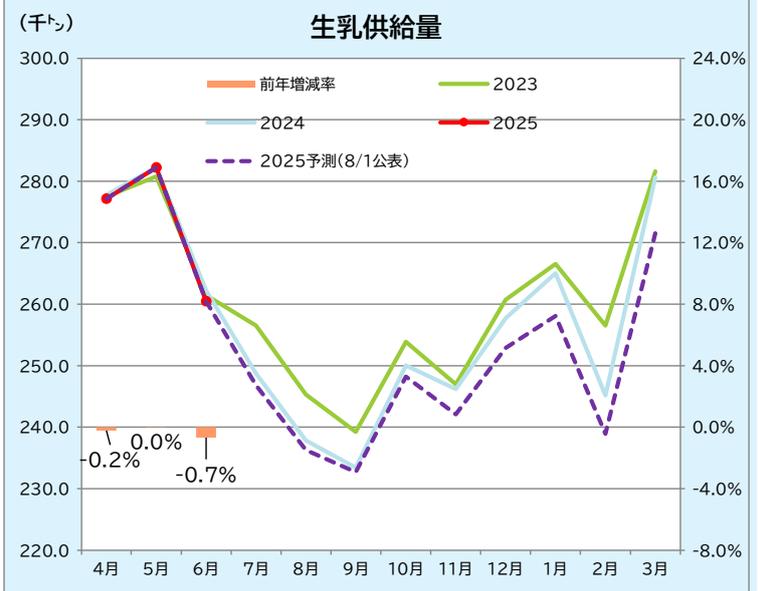
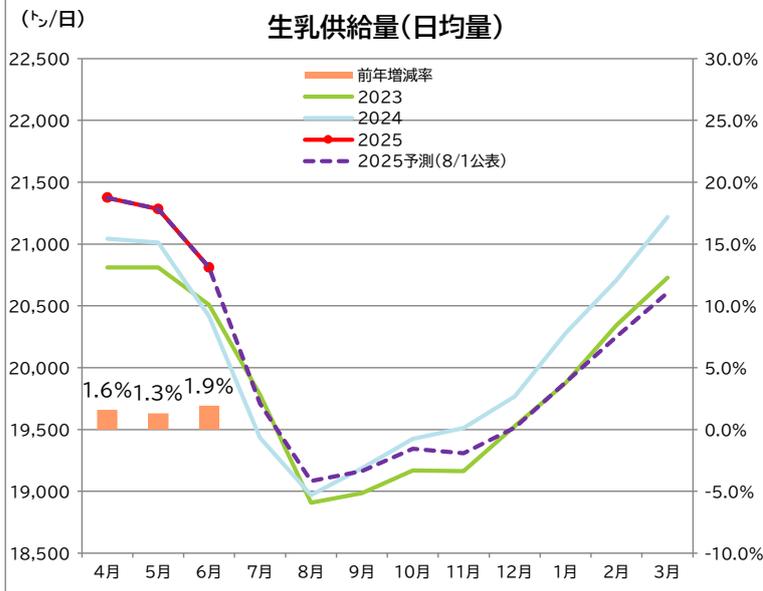


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の生乳供給量は624.3千トン(前年同月比101.9%)、飲用等向333.3千トン(同99.0%)、乳製品向(認定ベース)291.0千トン(同105.5%)。  
 (2)飲用等向が2か月連続で前年を下回り、生乳供給量は11か月連続で前年を上回り、結果として乳製品向も11か月連続で前年を上回った。  
 (3)5月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:621.5千トン)は上振れ、飲用等向(予測値:337.6千トン)は下振れ、乳製品向(予測値:283.8千トン)も上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)6月は、生乳供給量260.5千トン(前年同月比99.3%)、牛乳等向282.1千トン(同98.6%)。  
 (2)北海道からの移入量については46.4千トン(同102.0%)と前年を上回った。  
 (3)5月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:257.7千トン)は上振れ、牛乳等向(予測値:288.0千トン)は下振れ、移入量(予測値:51.7千トン)も下振れとなった。



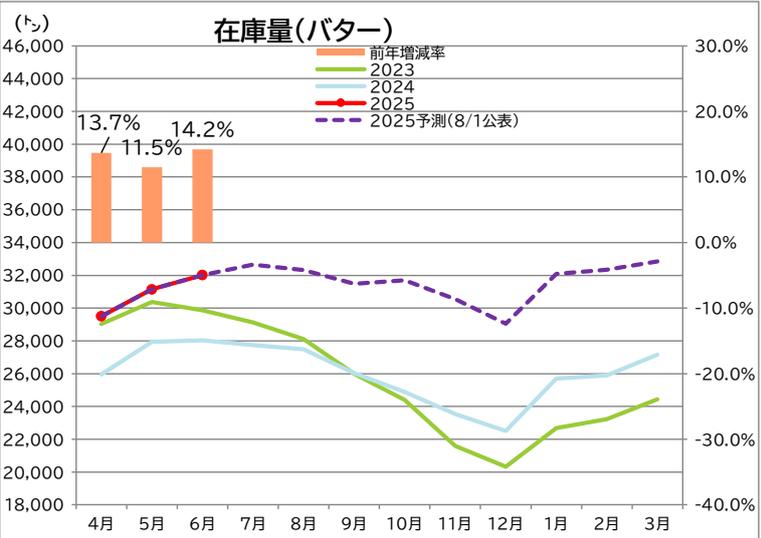
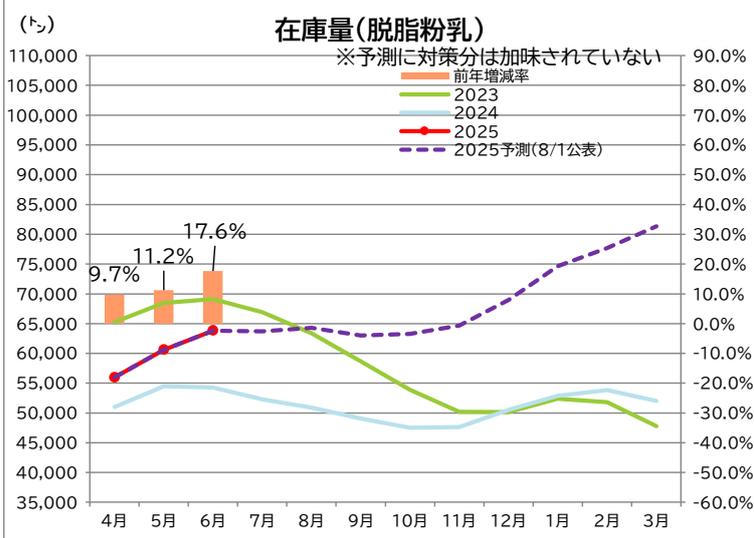
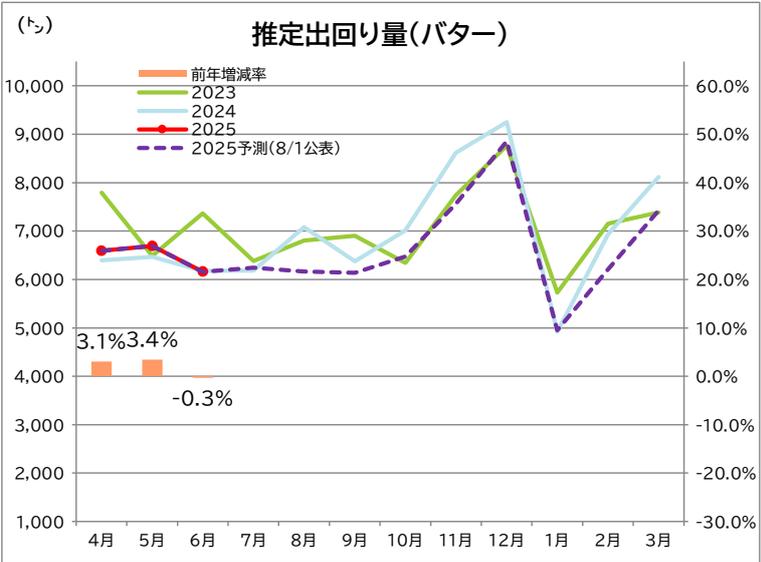
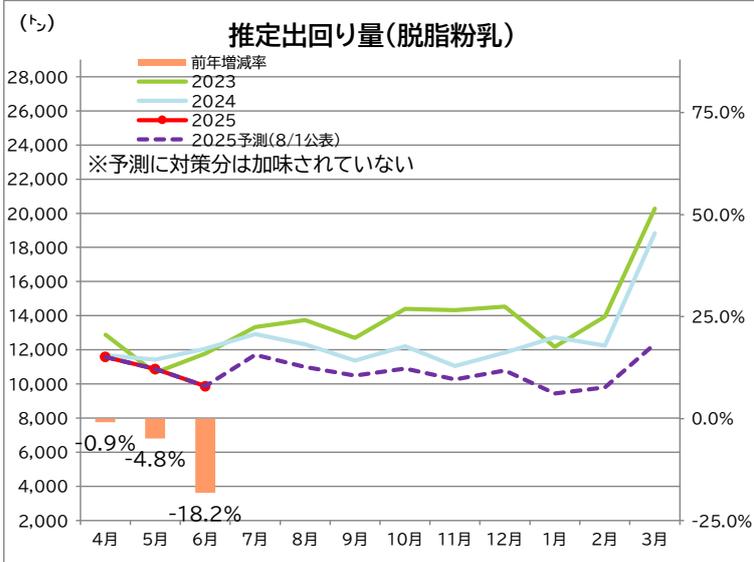
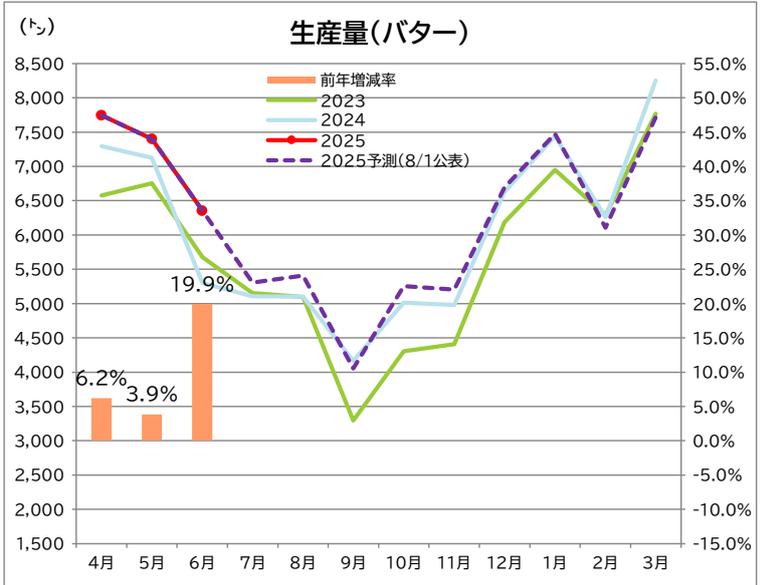
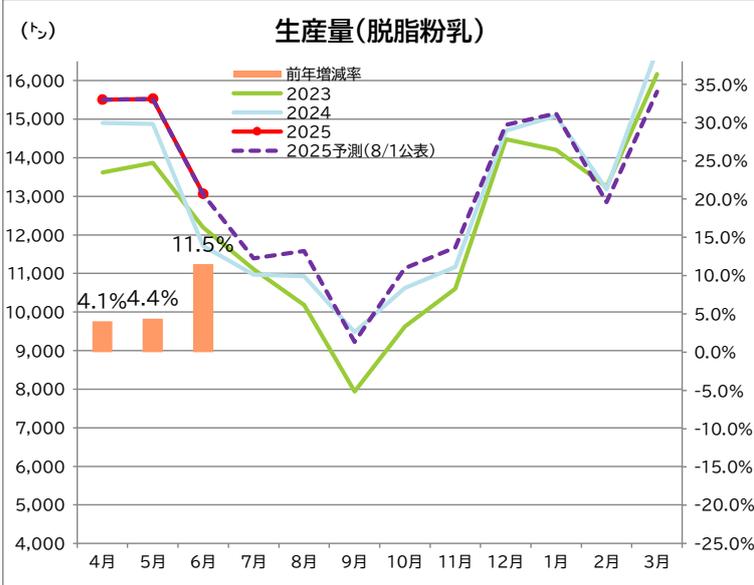
## 【脱脂粉乳・バターの需給】

(1) 脱脂粉乳について6月の生産量は13.1千ト(前年同月111.5%)、推定出回り量は9.9千ト(同81.8%)となった。出回り量が生産量を下回ったため在庫量は前月から3.2千ト程度増加し、63.8千ト(同117.6%)となった。在庫量は昨年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、7カ月連続で前年水準を超えて推移している。在庫量が6万トを上回るのは、2カ月連続となる。

※なお、推定出回り量の実績について、前年度の実績から在庫対策を差し引いた数量との比較は99.3%。

(2) バターについて、6月の生産量は6.4千ト(同119.9%)、推定出回り量は6.2千ト(同99.7%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約0.7千ト)も考慮すると在庫量は前月から約0.9千ト増加し32.0千ト(同114.2%)となった。在庫量は9カ月連続で前年超え。

▶脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)7月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.0%、成分調整牛乳:同94.3%、加工乳:同91.2%、乳飲料:同97.6%。牛乳類全体:同99.1%

【参考】2023年7月比…牛乳:95.4%、成分調整牛乳:80.4%、加工乳:96.9%、乳飲料:95.4%(牛乳類トータル:94.4%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(7/28)の販売個数は、牛乳:前年同期比99.2%、成分調整牛乳:同92.9%、加工乳:同88.1%、乳飲料:同98.4%。牛乳類トータルでは同98.5%

出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

単位:千個、円

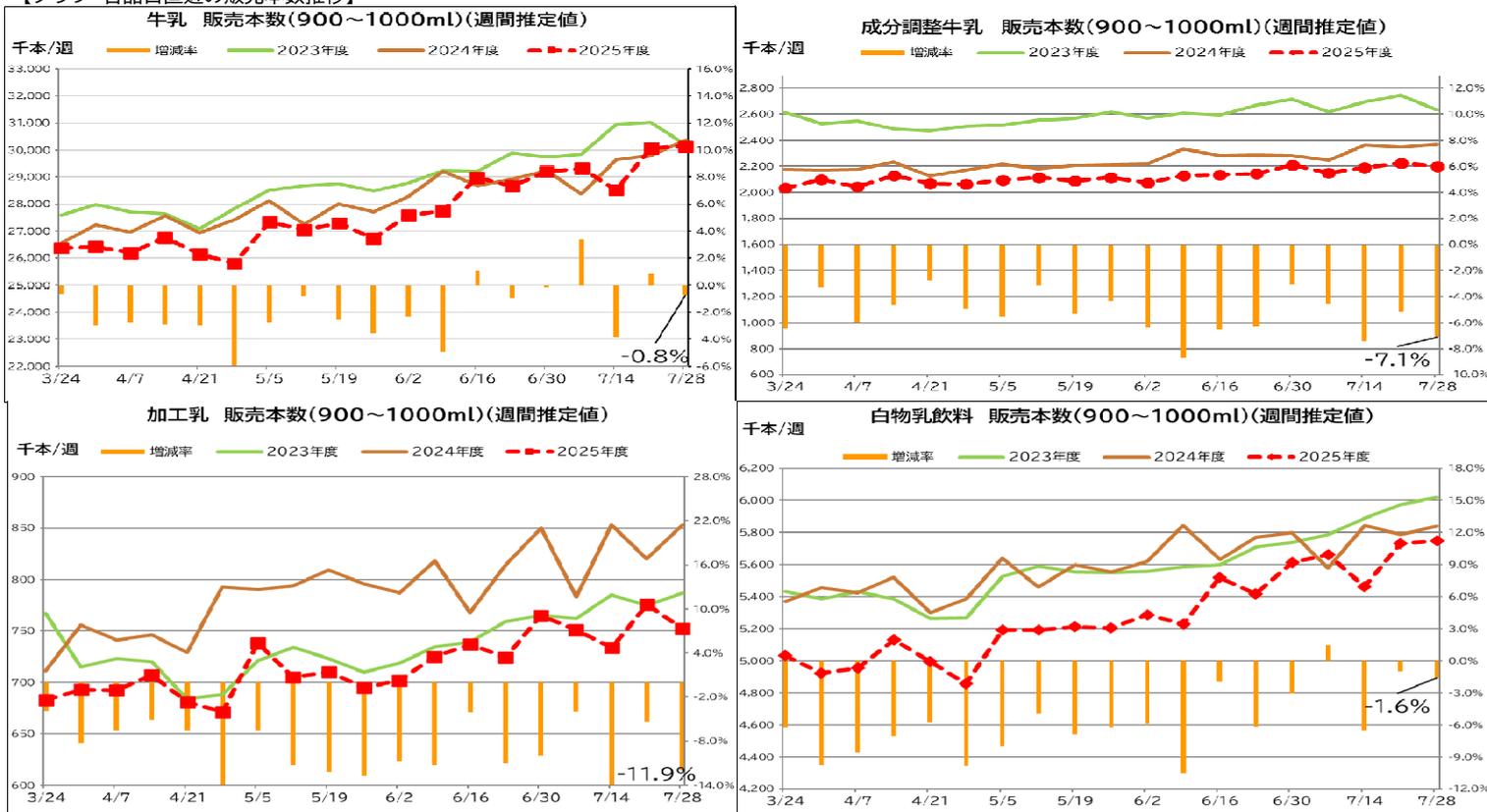
品目	区分	2025/2-	2025/3-	2025/4-	2025/5-	2025/6-	2025/7-	2025/7- 2022/10価格差	2025/7- 2023/3価格差	2025/7- 2023/7価格差
		販売個数	134,275	149,689	146,253	153,204	157,377	167,382		
トータル	販売個数前年比	95.7	98.1	95.6	96.9	96.9	99.1	33.2	18.1	16.3
	販売単価	215.9	215.6	215.9	216.1	216.0	216.3			
牛乳	販売個数	103,489	115,533	112,919	118,273	121,902	129,515			
	販売個数前年比	96.8	99.1	96.5	97.8	98.0	100.0	34.9	18.6	17.8
成分調整牛乳	販売個数	8,385	9,078	8,943	9,201	9,182	9,676			
	販売個数前年比	93.9	95.0	95.1	96.1	93.2	94.3	32.9	17.3	13.7
加工乳	販売個数	2,693	3,025	2,967	3,103	3,119	3,335			
	販売個数前年比	94.2	97.9	92.7	89.2	90.1	91.2	31.4	21.7	11.5
乳飲料	販売個数	19,708	22,053	21,424	22,627	23,173	24,855			
	販売個数前年比	91.4	94.3	91.7	93.5	94.0	97.6	24.1	13.5	9.8
	販売単価	172.9	173.1	173.4	173.7	173.6	173.6			

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	6.9-	6.16-	6.23-	6.30-	7.7-	7.14-	7.21-	7.28-	25.7.28- 22.10.24 価格差	25.7.28- 23.3.20 価格差	25.7.28- 23.7.24 価格差	25.7.28- 25.7.21 価格差
		販売個数	35,842	37,364	36,948	37,793	37,884	36,914	38,790	38,834			
トータル	販売個数前年比	93.8	100.0	97.7	99.0	102.5	95.3	100.1	98.5	34.9	20.0	17.6	1.6
	販売単価	216.0	216.2	216.2	216.1	216.0	216.1	216.5	218.1				
牛乳	販売個数	27,760	28,974	28,662	29,201	29,323	28,528	30,060	30,133				
	販売個数前年比	95.0	101.0	99.1	99.8	103.4	96.2	100.9	99.2	36.5	20.2	19.0	1.5
成分調整牛乳	販売個数	2,129	2,133	2,146	2,212	2,148	2,190	2,225	2,200				
	販売個数前年比	91.3	93.4	93.7	96.9	95.5	92.6	94.8	92.9	35.5	20.7	15.8	2.6
加工乳	販売個数	725	737	724	765	751	734	776	752				
	販売個数前年比	88.7	95.9	89.0	90.0	96.0	86.0	94.6	88.1	33.4	23.5	13.5	3.5
乳飲料	販売個数	5,228	5,519	5,416	5,615	5,662	5,462	5,730	5,749				
	販売個数前年比	89.4	98.0	93.8	96.9	101.5	93.4	99.0	98.4	25.4	15.6	10.9	1.9
	販売単価	173.8	173.9	174.0	173.9	173.6	173.5	173.2	175.1				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

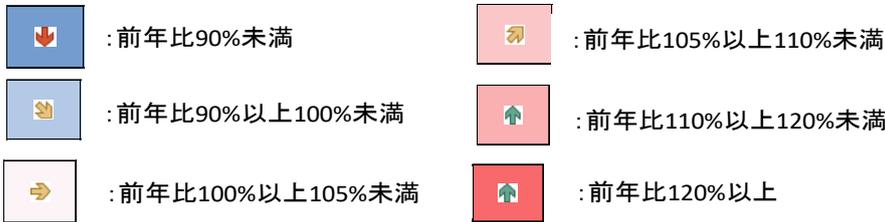
直近(7/28週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比90%以上)。

(2)販売個数について、前週(7/21週)との比較では、3品目すべて減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	6.9-	6.16-	6.23-	6.30-	7.7-	7.14-	7.21-	7.28-
ドリンクタイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	→	↗	→	↗	↑	→	↗	→



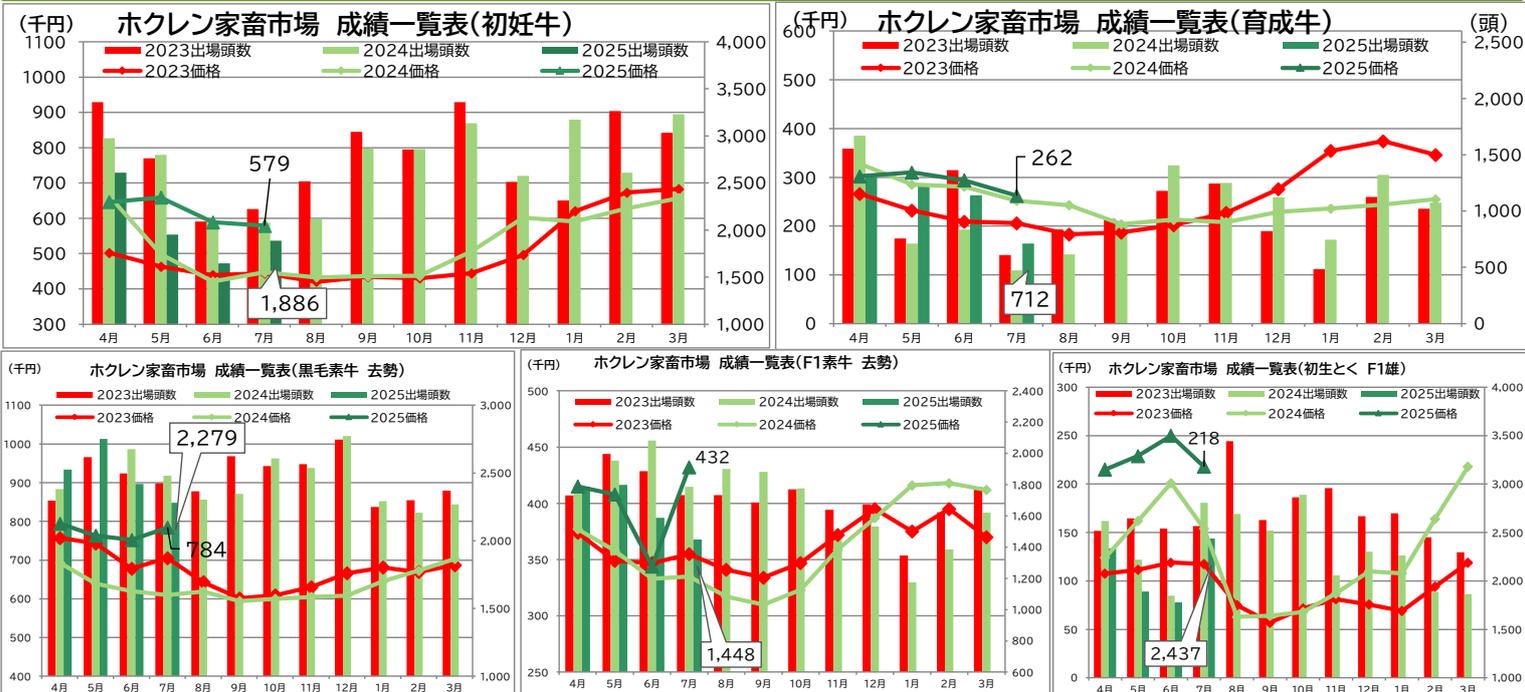
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)7月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は579千円(前年同期比129.5%)、育成牛価格は262千円(同104.0%)、和牛素牛(去勢)価格784千円(同128.5%)、F1素牛(去勢)価格は432千円(同129.0%)。初妊牛は2か月連続で50万円台、育成牛は2力連続で20万円台。ホル初生(雄)価格は70千円(同116.7%)と、2か月ぶりに前年水準を上回った(グラフ無し)。

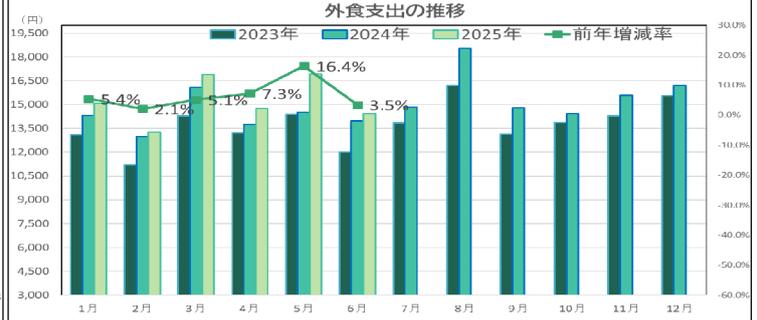
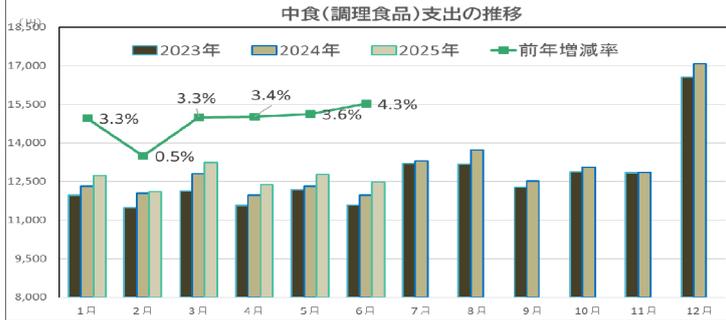
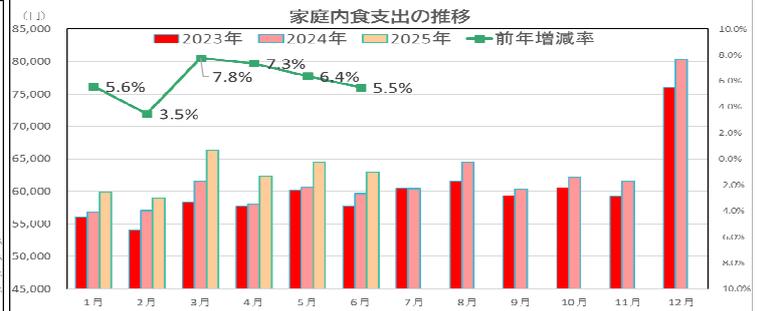
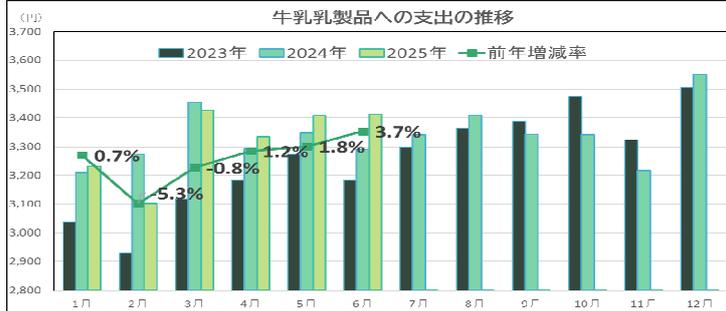
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同78.7%、育成牛:同136.4%、F1初生(雄):同96.4%、和牛素牛(去勢):同90.4%、F1素牛(去勢):同76.2%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

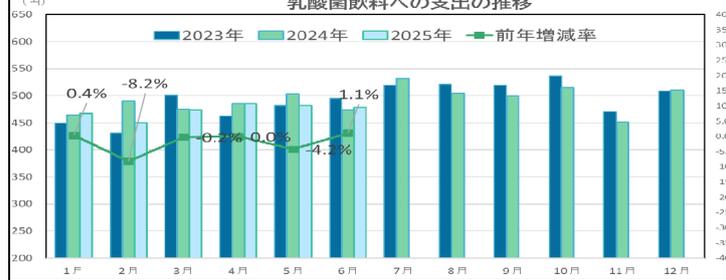
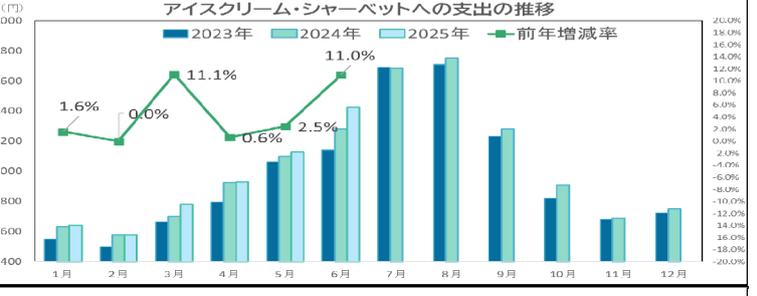
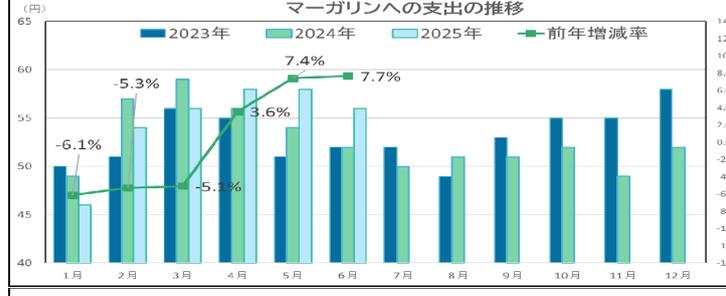
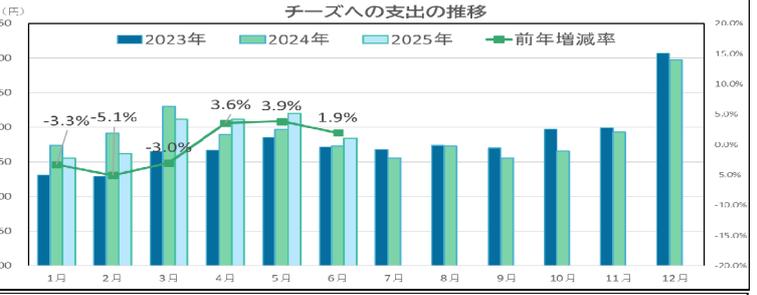
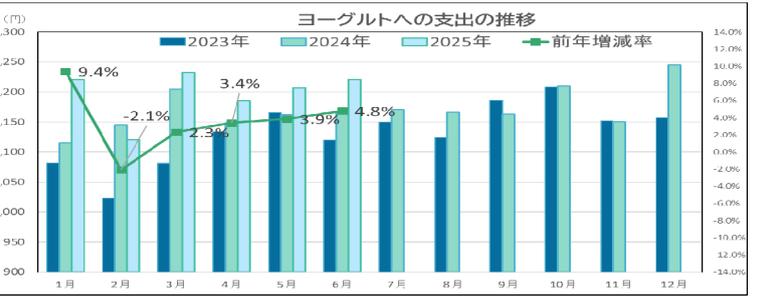
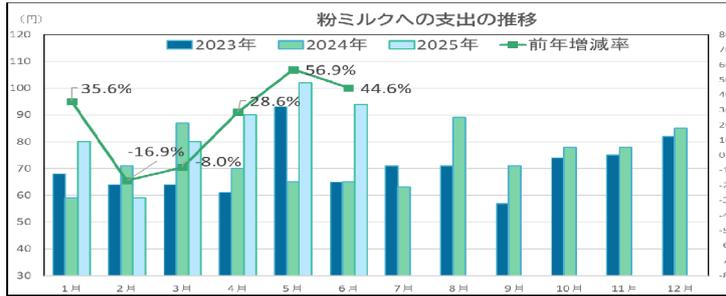


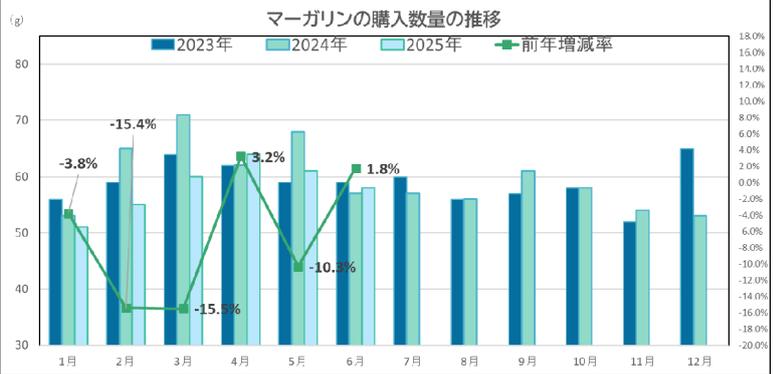
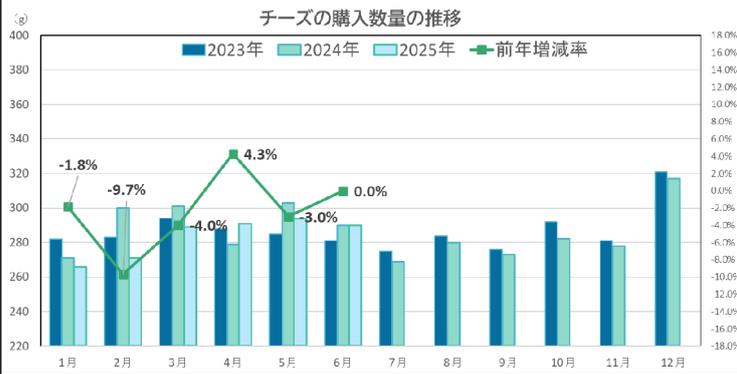
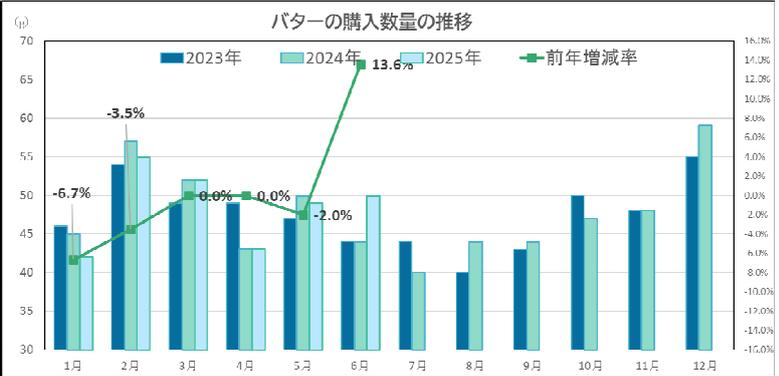
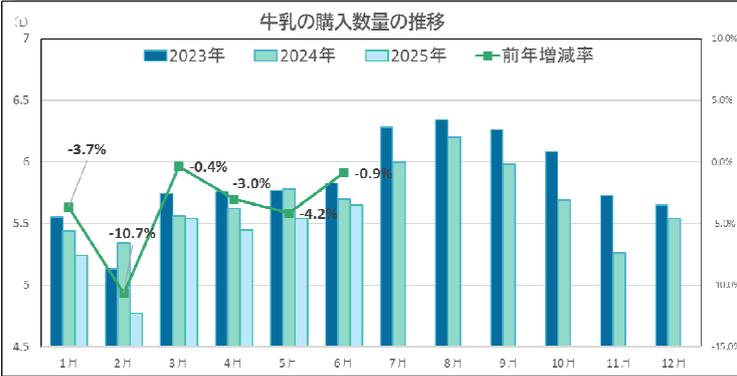
【家計支出の動向】

(1)6月の支出額前年比について、外食103.5%、中食104.3%、内食105.5%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は105.0%となった。  
 (2)牛乳乳製品の支出額も前年比103.7%(うち牛乳100.9%、乳製品105.5%)と3カ月連続で前年を上回った。  
 (3)なお、購入量は、牛乳99.1%(1世帯当たり5.65)と13か月連続で前年割れ。チーズは2カ月ぶりに前年超え、バターも2カ月ぶりに前年超えとなった。  
 ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



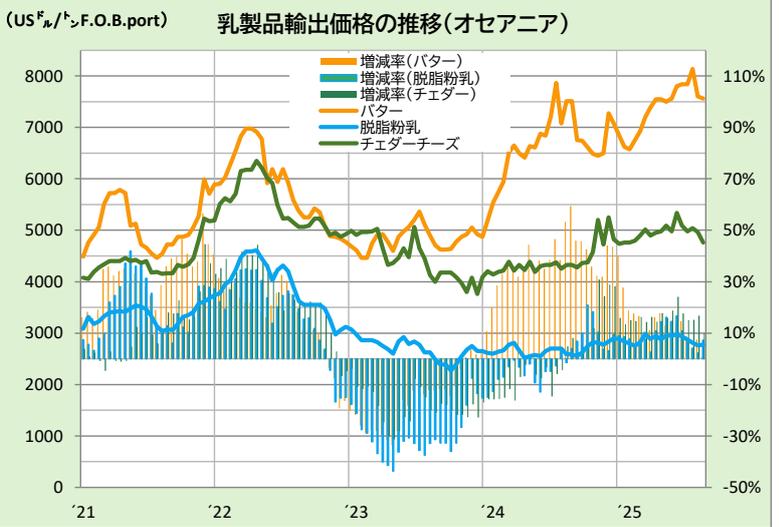
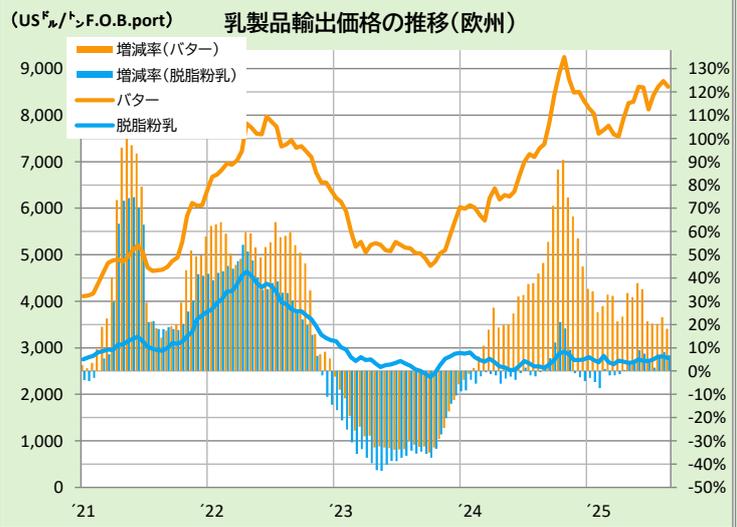


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(7月中旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,775ドル/ト、バター8,613ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,775ドル/ト、バター7,563ドル/ト、チェダーチーズは4,763ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」